



地域に必要な機能を強化し 新しい分野で更なる発展をめざす

くらて病院は2021年に新築移転し、地域に不足する医療資源を強化。さらに2024年度からは新理事長と院長が就任し、専門外来や特殊な治療で診療圏拡大も実現している

vol.68

病院新時代



地方独立行政法人

くらて病院

(福岡県鞍手町)

「緑あふれる病院」がコンセプト。入り口前の庭園と3階の屋上庭園は緑に囲まれて気持ちよくリハビリできると好評

くらて病院の新たな視点

- 地域に不足した医療資源を強化
- 回復期病床増床で切れ目のない医療提供
- 新しい治療と広報の強化で医療圏拡大

1 今年導入した水蒸気治療。出血量が少ないため高リスクの患者も手術が可能になり、手術時間も大幅に短縮 2 外来の小児科専用ブース。救急外来と小児科専用ブースの間に、小児発熱外来専用の出入口も設置 3 救急外来。地域の救急との連携も強化し、救急搬送件数が大幅に増加 4 ホテルのフロントをイメージした受付とロビー。吹き抜けの開放感あふれる空間 5 1本の廊下に外来や検査を集約し、患者は迷わずに移動できる 6 広く見晴らしの良いリハビリテーション室 7 「移転でアクセスも良くなり、診療圏拡大も見込めます。地域住民と職員、両方へ選ばれる病院をめざします」と話す藤本直浩理事長



地方独立行政法人
くらて病院
住所：福岡県鞍手郡鞍手町
小牧2226-2
TEL：0949-42-1231
病床数：222床
診療科：24科

安部治彦院長が就任し、看護部長なども含めて経営陣が一新した。藤本理事長の専門である泌尿器科では、前立腺肥大の手術に水蒸気治療を導入し、高齢者などのリスクの高い患者にも手術が可能になったこと、手術時間が1〜2時間から10分に短縮されたことで、入院患者数は2倍、手術数1・55倍と急増している。循環器が専門の安部院長による九州初の「失神外来」も好調で、患者数増加が続く。藤本理事長は「病院経営は、存続と持続的な発展のために行うべきだと考えます。公的病院として地域に必要な医療を継続するために、収益増や効率化できる部分の改善に取り組んでいます。今後は広報に力を入れます。水蒸気治療や失神外来については、近隣医療機関への広報に注力し奏功しました。これから広報委員会を立ち上げ、職員の経営参画意識醸成にも取り組みます」と語る。

地

方独立行政法人くらて病院は2021年に新築移転し、明るく開放感あふれる病院に生まれ変わった。同院のある福岡県鞍手町は医療資源の少ない地域。小児科、眼科、耳鼻咽喉科などは非常勤医師による外来診療で対応していたが、子育て世代から要望の多い小児科は、移転を機に外来に専用ブースを設け、常勤医を配置した。移転を機に地域に不足している回復期機能を充実させるべく、病床機能を急性期病床100床、回復期病床122床とし、隣接医療圏の高次医療機関から術後患者や亜急性期患者の転院も積極的に受け入れている。地域の介護施設との連携を強化し、サブアキュート患者の受け入れも増加した。移転前と比べ、新規入院患者数は1500人から2200人以上へと1・5倍ほど増加。要望の多い24時間365日の救急体制にも注力し、内科系、外科系医師の2人体制での当直を実施した結果、年間600人以下だった救急搬送患者数が、移転後3年間で1000人以上に増加した。時間外受け入れ患者数は2900人にのぼる。今年4月には藤本直浩理事長、

撮影＝重光紀代子